

2022年3月期第2四半期 決算説明資料

名古屋鉄道株式会社

2021年11月8日

連結損益計算書

() は増減率

(単位：百万円、%)

	当第2四半期	前第2四半期	増減	(対前年同期)	5月公表値	増減
営業収益	※ 224,284	226,942	△ 2,658 (△1.2)	流通 △17,897 不動産 △10,181 レジャー・サービス +10,491 交通 +6,222 運送 +4,600 航空関連サービス +472 その他 +201	245,000	△ 20,715 (△8.5)
営業費用	226,928	241,930	△ 15,002	商製品売上原価 △25,319	243,500	△ 16,571
営業利益	△ 2,644	△ 14,987	12,343 (—)	交通 +8,062 レジャー・サービス +3,559 運送 +1,562 流通 +711 航空関連サービス +550 その他 +229 不動産 △2,619	1,500	△ 4,144 (—)
経常利益	2,525	△ 10,838	13,363 (—)	営業外収益 +598 営業外費用 △421	3,000	△ 474 (△15.8)
特別利益	2,633	2,403	229	投資有価証券売却益 +357	1,000	1,633
特別損失	1,615	3,132	△ 1,516	投資有価証券評価損 △894	1,000	615
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,016	△ 12,404	13,421 (—)		500	516 (103.4)

※「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響：△11,275

- 営業収益 : 【減収】 不動産事業における減収や収益認識基準適用の影響により全体で減収。
 営業利益 : 【赤字幅縮小】 交通事業やレジャー・サービス事業の収支改善により赤字幅縮小。
 経常利益 : 【黒字化】 営業外損益の改善により黒字化。
 親会社株主に帰属する
 四半期純利益 : 【黒字化】 経常損益の改善に加え、特別損益も改善し、黒字化。

- 《連結子会社数》 : 110社 (増加 3社) 名鉄ホテルマネジメント犬山 (新規加入)、名鉄ホテルホールディングス (新規加入)
 岐阜観光索道 (区分変更)
 (減少 2社) 名鉄美装 (被合併)、豊鉄観光サービス (被合併)
 《持分法適用会社数》 : 13社 (減少 1社) 岐阜観光索道 (区分変更)

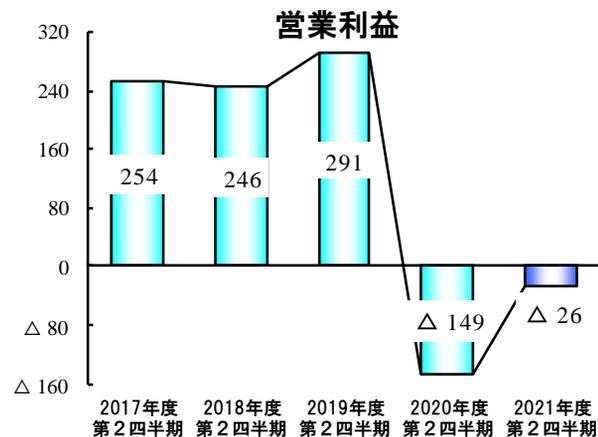


連結業績の推移

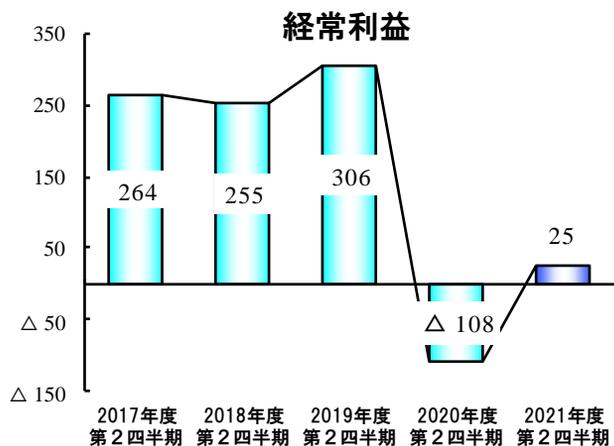
(単位:億円)



2期連続減収



2期連続赤字



2期ぶりの黒字



2期ぶりの黒字

セグメント別営業成績

(単位:百万円、%)

営業収益	当第2四半期	前第2四半期	増減額	増減率	収益認識基準影響額	増減額 (収益認識基準影響額)	コメント
交通事業	55,005	48,782	6,222	12.8	65	6,157	鉄軌道事業、バス事業における新型コロナウイルス感染症の影響が前年同期から縮小したことによる増収
運送事業	66,542	61,941	4,600	7.4	△ 94	4,694	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期から貨物取扱量が回復したことにより全事業で増収
不動産事業	37,553	47,734	△ 10,181	△ 21.3	51	△ 10,232	賃貸事業における駐車場利用の増加があったものの、分譲マンション販売の引渡戸数の減少により減収
レジャー・サービス事業	18,237	7,745	10,491	135.4	5,377	5,114	新型コロナウイルス感染症の影響が前年同期から縮小したことによる増収
流通事業	31,218	49,115	△ 17,897	△ 36.4	△ 20,383	2,486	百貨店で前期に一部子会社を譲渡したことによる減収があったものの、建設資材の取扱の増加などにより全体で増収(収益認識基準の影響を除く)
航空関連サービス事業	10,436	9,964	472	4.7	—	472	航空事業で物資輸送の増加により増収
その他の事業	19,813	19,611	201	1.0	△ 371	572	システム関連の受注増加などにより増収
調整額	△ 14,523	△ 17,954	3,431	—	4,080	△ 649	
合計	224,284	226,942	△ 2,658	△ 1.2	△ 11,275	8,616	

営業利益	当第2四半期	前第2四半期	増減額	増減率	コメント
交通事業	△ 4,087	△ 12,150	8,062	—	
運送事業	1,680	117	1,562	※ —	
不動産事業	4,891	7,510	△ 2,619	△ 34.9	
レジャー・サービス事業	△ 5,042	△ 8,602	3,559	—	
流通事業	△ 1,479	△ 2,191	711	—	
航空関連サービス事業	732	181	550	303.7	
その他の事業	471	241	229	95.3	
調整額	190	△ 94	284	—	
合計	△ 2,644	△ 14,987	12,343	—	

※増減率が1,000%以上のため一表記にしております。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期	前期末	増減額	コメント
流動資産	200,880	215,097	△ 14,216	受取手形、売掛金及び契約資産の減少
固定資産	978,595	976,033	2,561	
有形固定資産	831,547	831,429	118	
無形固定資産	9,010	9,222	△ 212	
投資その他の資産	138,037	135,382	2,655	保有上場株式の時価上昇による投資有価証券の増加
資産合計	1,179,476	1,191,131	△ 11,654	
流動負債	267,727	281,782	△ 14,054	支払手形及び買掛金の減少
固定負債	501,637	501,836	△ 199	
負債合計	769,364	783,619	△ 14,254	
純資産合計	410,112	407,512	2,600	親会社株主に帰属する四半期純利益 +1,016
負債純資産合計	1,179,476	1,191,131	△ 11,654	
連結有利子負債合計	487,264	484,169	3,095	〔参考〕純有利子負債残高 443,998 (前期末比 +13,849)



個別業績

◆個別損益計算書◆

() は増減率

(単位：百万円、%)

	当第2四半期	前第2四半期	増減	(対前年同期)
営業収益	41,286	37,507	3,779 (10.1)	鉄軌道事業 +3,714 開発事業 +64
営業費用	39,406	40,768	△1,362	人件費 △670 減価償却費 △542
営業利益	1,880	△ 3,261	5,141 (—)	
経常利益	2,658	679	1,979 (291.4)	営業外収益 △2,568 営業外費用 +593
四半期純利益	1,248	481	766 (159.2)	特別利益 +154 特別損失 +1,621

◆名鉄 運輸成績◆

(単位：百万円、%)

旅客収入	当第2四半期	前第2四半期	増減率
定期外	14,353	11,626	23.4
定期	17,201	16,273	5.7
計	31,554	27,900	13.1

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

(単位：千人、%)

輸送人員	当第2四半期	前第2四半期	増減率
定期外	39,584	32,915	20.3
定期	118,642	113,173	4.8
計	158,226	146,088	8.3

輸送人員の推移

(単位:百万人)

□ 定期 □ 定期外



2022年3月期 連結業績予想

() は増減率

(単位：百万円、%)

	2021年度 今回予想	前回予想 (5月時点)	増減	(対前回予想)	2020年度	増減
営業収益	500,000	530,000	△ 30,000 (△5.7)	レジャー・サービス △19,800 交通 △12,600 その他 △1,500 流通 △1,300 運送 +600 航空関連サービス +200	481,645	18,355 (3.8)
営業利益	3,000	13,000	△ 10,000 (△76.9)	交通 △6,500 レジャー・サービス △4,500 流通 △600 運送 △200 不動産 +1,500 航空関連サービス +500	△ 16,354	19,354 (—)
経常利益	10,000	16,000	△ 6,000 (△37.5)	営業外収益 +3,500 営業外費用 △500	△ 8,146	18,146 (—)
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,000	11,000	△ 6,000 (△54.5)	特別利益 +200 特別損失 +1,200	△ 28,769	33,769 (—)
E B I T D A	42,500	52,500	△ 10,000 (△19.0)	※EBITDA：営業利益＋減価償却費	22,996	19,504 (84.8)
設備投資額	65,700	65,700	—		47,937	17,763 (37.1)
減価償却費	39,500	39,500	—		39,351	149 (0.4)
純有利子負債	450,000	450,000	—	※純有利子負債：有利子負債－現預金・短期有価証券	430,149	19,851 (4.6)

2021年度今回予想は、本年10月以降において新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出等による社会制限を見込まず、国内の経済活動は足元の状況から2022年度中に向けて緩やかに回復していくとの仮定で集計。前回予想(5月11日)比では、第2四半期実績を踏まえ、営業収益は、レジャー・サービス事業、交通事業などで下振れを見込み、全体では減収・営業減益と予想。また、雇用調整助成金の計上により営業外損益の改善を見込むものの、特別損益の悪化などにより、最終の当期純利益も前回予想を下回る見通し。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



2022年3月期 個別業績予想

() は増減率

(単位：百万円、%)

	2021年度 今回予想	前回予想 (5月時点)	増減	(対前回予想)	2020年度 実績	増減
営業収益	86,400	92,400	△ 6,000 (△6.5)	鉄軌道事業の減収	78,316	8,083 (10.3)
営業利益	4,300	6,500	△ 2,200 (△33.8)	減収により減益	△ 3,604	7,904 (—)
経常利益	4,600	5,400	△ 800 (△14.8)	営業損益の悪化により減益	△ 3	4,603 (—)
当期純利益	2,500	6,300	△ 3,800 (△60.3)	特別損益の悪化により減益	△ 13,130	15,630 (—)

◆ 1株当たり配当金◆

(単位：円)

	2022年3月期 (予想)	2021年3月期
配当金額	12.50	0.00





業績予想につきましては、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承下さい。